

社会的事象の意味を実感する子供を育てる社会科学学習指導

～追体験で事実のつながりを確かにする活動を通して～

研修教諭 宮原 正尚

指導教諭 江崎 億

1 主題設定の理由

(1) 教育の動向から

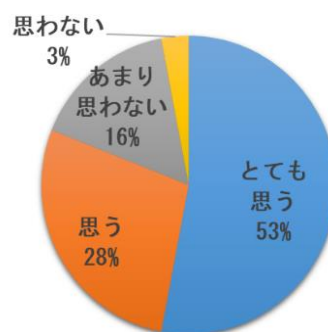
令和5年6月16日に閣議決定された第4期教育振興基本計画では、将来の予測が困難な時代において、未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決などを通じて、持続可能な社会を維持・向上させていくことが求められている。「18歳意識調査『第46回 -国や社会に対する意識（6カ国調査）』」

（日本財団、2022）において、「国や社会に役立つことをしたい」という項目に対して、日本は6カ国の中で最下位の65.7%で、子供たちが社会の形成に主体的に参画する意識が低いことが指摘されている。そのため、社会の持続的な発展を生み出す人材を育成するためには、子供たち自身が社会を形成する一員である自覚をすることが大切であると考え。小学校社会科では、よりよい社会を考え主体的に問題を解決しようとする態度、社会的事象の意味を多角的に考える力、社会生活についての理解、社会の一員としての自覚が求められている。社会科が担う役割は、この点において大きいと考える。また、小学校学習指導要領社会編では、社会生活に適応し、発展に貢献しようとする態度を育てるとともに、人々が相互に様々に関わりをもち、生活を営んでいることを理解することが大切であると述べられている。そのためには、人々の相互の関わりの結果としての生活の営みについての理解に留まらず、生活の営みの背景としての人々の相互の関わりを想像して理解し、「社会的事象の意味を実感」できるようにすることは意義深いと考える。

(2) 児童の実態から

資料1は、本校3、4、5年生を対象とした社会科学学習に関わる実態調査の結果である。このアンケートの結果から、社会科の学習が自分の生活に関係があると答えた子供たちが81%いることがわかる。しかし、「将来役に立つと思う」というように、具体的な関わりを記述する子供があまり見られなかった。これは、自分の現在の生活と社会科の学習内容を十分に関連付けて捉えられていないからであると考え。よって、社会科の学習で調べた事実を自分の生活と結び付けて感じ考え、捉えられるようにすることが大切である。これらのことから、社会的事象の意味を実感する子供を育てる本研究は意義深い。

社会科で学習したことは自分の生活に関係があると思いますか。（N=105）



生活との関係の記述内容

・将来役に立つ ・学校の勉強 命を守る など

資料1 子供の実態について

(3) これまでの指導の反省から

これまでの授業を振り返ってみると、子供たちは資料で調べたり見学したりした事実を書き、まとめる様子は見られた。しかし、社会への関わり方を選択・判断する場面では、意見を決めることができなかつたり、根拠や理由が曖昧だったりすることが多かった。これは、以下の課題があったからだと考える。

●社会的事象の仕組みと働きの関連を捉えさせる手立てが不十分であった。

●社会的事象の働きを自分事として捉える思考を働かせる手立てが不十分であった。

以上の課題から、社会的事象の仕組みから働きを捉えた後に、その働きについて追体験し、他者と交流して事実のつながりを確かにする活動を設定し、社会的事象の意味を実感する子供を育てることを目指す。

2 主題の意味

(1) 「社会的事象の意味」とは

人々のよりよい生活に向けた共通の願いを叶えるために協働して行われる仕組みと、それによって生じた事物や現象が与える働きのことである。

人々のよりよい生活とは、全ての人が安心して暮らし、互いに支え合った生活のことである。協働とは、共通の目標に向かって、それぞれの力を発揮しながら協力し合って取り組むことである。人々は、安心して暮らしたいという共通の願いを叶えるために、それぞれの力を発揮しながら、相互に協力して事物や現象を生み出すのである。事物とは、目に見える形として表れた結果としての道具、諸制度、施設などのことである。現象とは、変化や動きとして表れた結果としての出来事のことである。事物や現象は社会生活の中で多数存在するが、中でも、子供たちが学習対象として捉えることができる事物や現象を、本研究では社会的事象として考える。

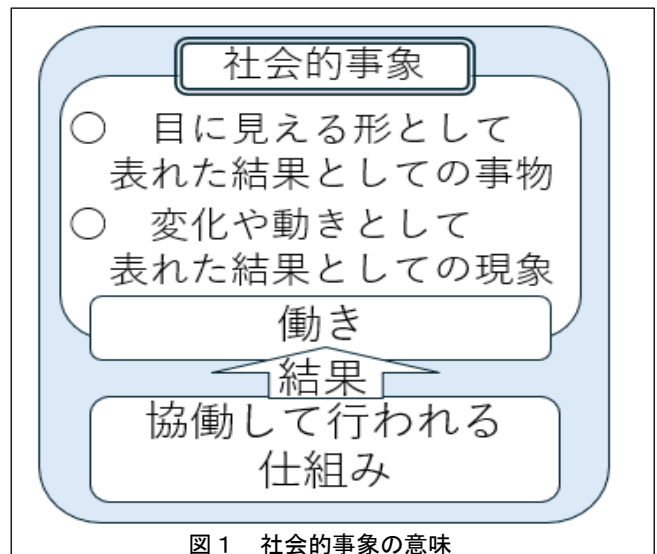


図1 社会的事象の意味

協働して行われる仕組みとは、社会的事象に関わる複数の立場の人達が、それぞれの力を発揮しながら協力し合うためのきまりや関係のことである。働きとは、社会的事象が人々の生活に果たす役割や影響のことである。この働きについては、協働して行われる仕組みと、それによって生じた事物や現象についての事実を得て、人々の生活と関連付けることで捉えることができる（図1）。

例えば、第4学年「ごみのしまつ」の学習では、よりよい生活環境にしたいという人々の共通の願いを叶えるために、市役所の人々がきまりを出し、収集業者がごみを集め、クリーンセンターが環境に配慮しながら処理するといった衛生的な処理をする仕組みがある。また、資源ごみに関しては、県内外の業者が分担して収集し、再利用している仕組みがある。このような仕組みによって、廃棄するごみの量を減らしたり、ごみが残されることによって人々が病気になることを防いだり、有害物質によって人々の健康を害することを防いだりするというような、継続的に人々の生活環境を守ることにつながっていく働きが生じる。子供たちは廃棄物を処理する事業について追究することを通してこのような仕組みと働きを捉えるのである。

(2) 「社会的事象の意味を実感する」とは

人々のよりよい生活に向けた共通の願いを叶えるために協働して行われる仕組みと、それによって生じた事物や現象が与える働きについて、働きの背景の仕組みとして実際に感じ取って捉えることである。

協働して行われている仕組みの結果として働きが生じていることを捉えるだけでも理解はできる。しかし、社会的事象の働きには、触ったり聞いたりしないと分からないものや、そのまま見ようとしても見えにくいものも多い。そこで、社会的事象の働きを実際に感じ取り、その背景としての仕組みを思い浮かべ、その理解が強固なものになると、定着できるようになると考える（図2）。このことは、「事実認識」「関係認識」「価値認識」といった社会認識を深めることになると考える。

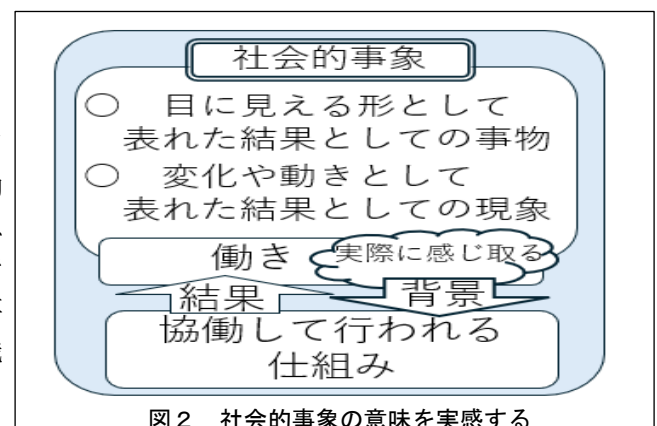


図2 社会的事象の意味を実感する

社会的事象の意味を実感する子供は、「事実認識」「関係認識」「価値認識」といった段階で高まると考える（図3）。

「事実認識」とは、社会的事象について問いを基に取材したり資料から調べたりしたことを、客観的で正確な個別の事実として捉えることである。

「関係認識」とは、事実と事実の間にある関係性としての仕組みを捉えることである。

「価値認識」とは、関係性としての仕組みによって生じた働きを捉えることである。

そして、価値認識の段階で、働きを実際に感じ取り、その背景としての仕組みを思い浮かべ、意味理解を強化するのである。

社会的事象の意味を実感することにより、学習したことを社会生活に生かそうとする主体的な態度にもつながり、社会に見られる課題の解決に向けて社会への関わり方を自分事として選択・判断することもできると考える。

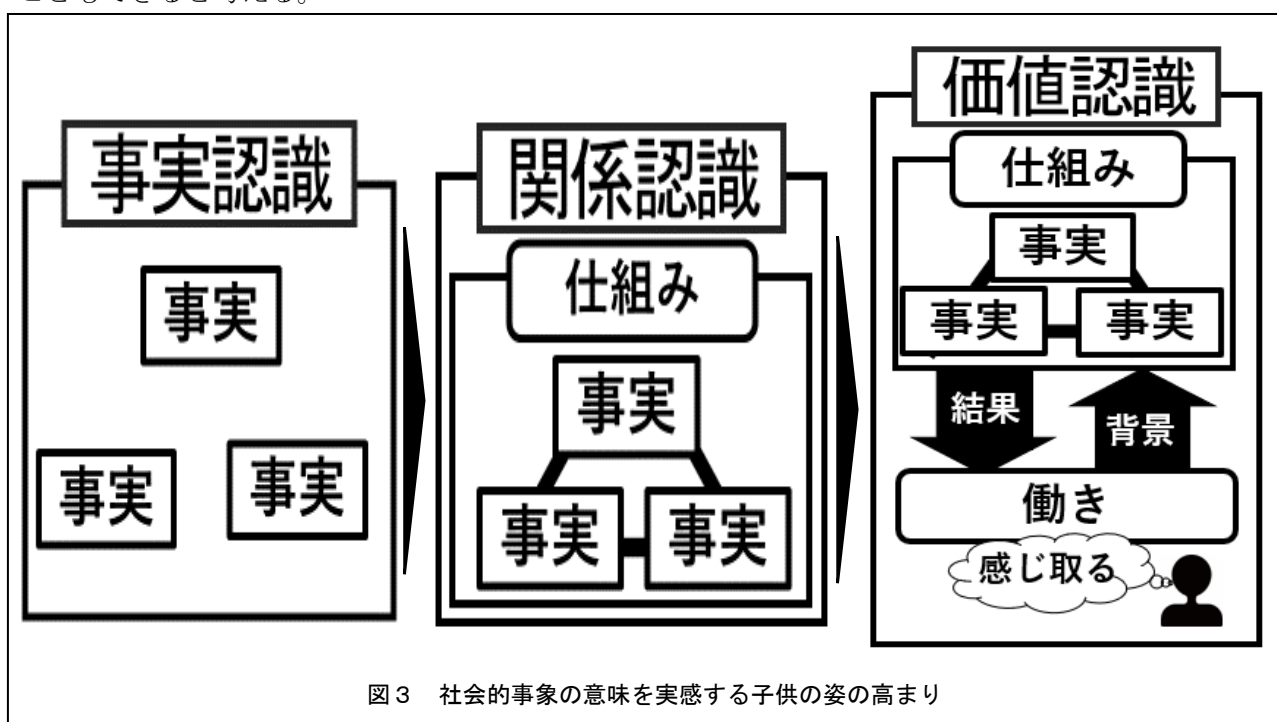


図3 社会的事象の意味を実感する子供の姿の高まり

(4) 「社会的事象の意味を実感する子供」とは

具体的に目指す子供の姿は以下のような資質・能力を身につけた子供のことである。

表1 目指す子供の資質・能力

知識及び技能	問題解決に必要な情報を調査活動や資料を通して収集し、読み取り、まとめる技能を身に付け、人々の共通の願いを叶えるために協働して行われる仕組みと、それによって生じる働きについてつながりを明確にすること。
思考力、判断力、表現力等	社会的事象の意味を多角的に、双方向から考え、社会に見られる課題を把握し、その解決に向けて自分の関わり方を選択・判断し、考えたことを説明したり、話し合ったりすること。
学びに向かう力、人間性等	社会的事象に関心をもち、学習問題を納得できるように解決しようと意欲的に追究し、学習した仕組みと働きを実感し、社会生活に生かそうとする態度を養うこと。

3 副主題の意味

(1)「追体験」とは

追究の対象となる人々の協働の仕組みによって生じた事物や現象が与える働きについて、自分が体験することである。

本研究では、社会的事象に関わる人の行為によりつくり出したものや行為に関わる出来事を体験することで、子供たちがよさに共感して社会的事象の働きを捉えることができる（図4）。

追体験は、以下の条件を全て満たしている場合に行うようにする。

- 本当かはっきりしないもの。
- 子供と関わりがあり、体験が可能なもの。
- 事実として共感できるよさを味わえるもの。

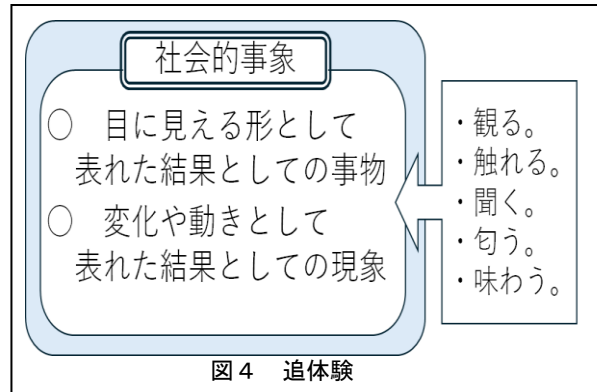


図4 追体験

(2)「追体験で事実のつながりを確かにする活動」とは

追究の対象となる人々の協働の仕組みによって生じた働きが事実であるのかをはっきりさせるために、働きについて自分自身が体験し、そこで感じ取ったことを基に、背景にある仕組みを思い浮かべ表現することである。

追体験をするまでに、子供たちは社会的事象について問いをもち、調査したり資料から調べたりしたことから必要な情報を読み取り、事実を関連付けて仕組みを考えている。また、仕組みと人々の生活を関連付けて働きを考え、社会的事象の意味を捉えている。そこで、本研究では追体験で事実のつながりを確かにする活動を単元の展開段階に設定し、「追体験する活動」「事実のつながりを話し合う活動」を行う（図5）。

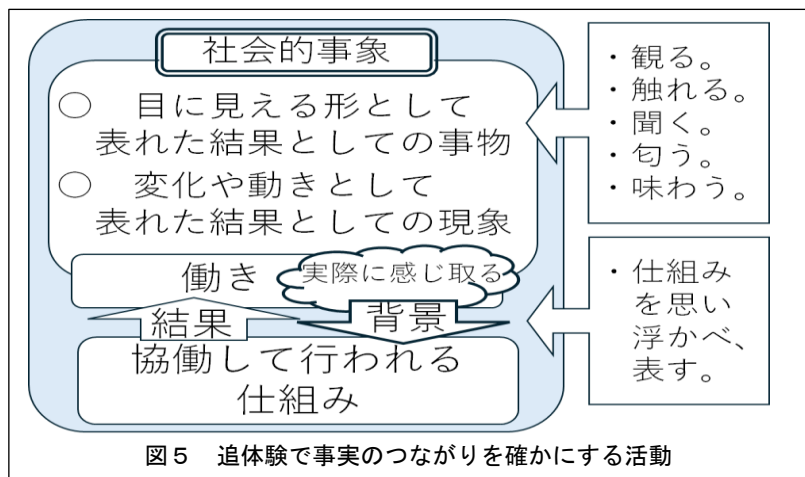


図5 追体験で事実のつながりを確かにする活動

○追体験する活動

社会的事象の働きを視点として、社会的事象に関わる人の行為によりつくり出したものや行為に関わる出来事を実際に体験し、感じたことをかき表すことである。

子供たちが社会的事象に関わる人の行為によりつくり出したものや行為に関わる出来事を実際に体験することで、働きに対する感動や尊敬の念をもち、よさを捉えることができる。このような感情を伴い捉えた働きは事実となり、考えの根拠となるのである。

○事実のつながりを話し合う活動

体験をして捉えたことを基に、仕組みと働きをつながりを見直して考え、他者の考えと比較して、共通点から考えを付加、修正、強化をすることである。

考えには、根拠となる事実、解釈、結論といった要素が必要と考える。

●事実・・・体験して捉えたこと。

●解釈・・・結論を述べるための根拠となる事実と事実のつながりのこと。

●結論・・・根拠のある事実を基に解釈し、自分なりに考えた問いに対する答えのこと。

自分の考えを他者と話し合い、共通点を見いだすことにより、自他の考えに納得し、働きと仕組み

の関連を明確にすることができる。このように、事実のつながりを確かにする活動を行うことにより、働きに共感し、仕組みと働きを双方向から捉え、納得し、つながりを明確にできると考える。

例えば、第3学年「久留米市の工場のしごと」の学習において、久留米市のアサヒシューズ工場の靴づくりでは、人と機械の作業によって正確に作っているという仕組みと、歩きやすくはきやすい快步主義という靴が作られているという働きがあることを捉える。そして、手足に重りを付け、高齢者の立場で快步主義をはく追体験をすることで、快步主義が本当に歩きやすくはきやすかったという感動をもち事実として捉える。この捉えた事実を基に、歩きやすくはきやすい快步主義は、機械と人により脱ぎはきが簡単に、つまずきにくいように正確に作られ、高齢者にたくさん買われているといった考えをつくる。そして、他者と交流し、歩きやすくはきやすい、正確に作っている、高齢者にたくさん買われているといった共通点を見だし、他者の考えと交流し、付加、修正、強化することで納得する。このことにより、事実のつながりが確かになり、社会的事象の仕組みと働きを実感することができる。

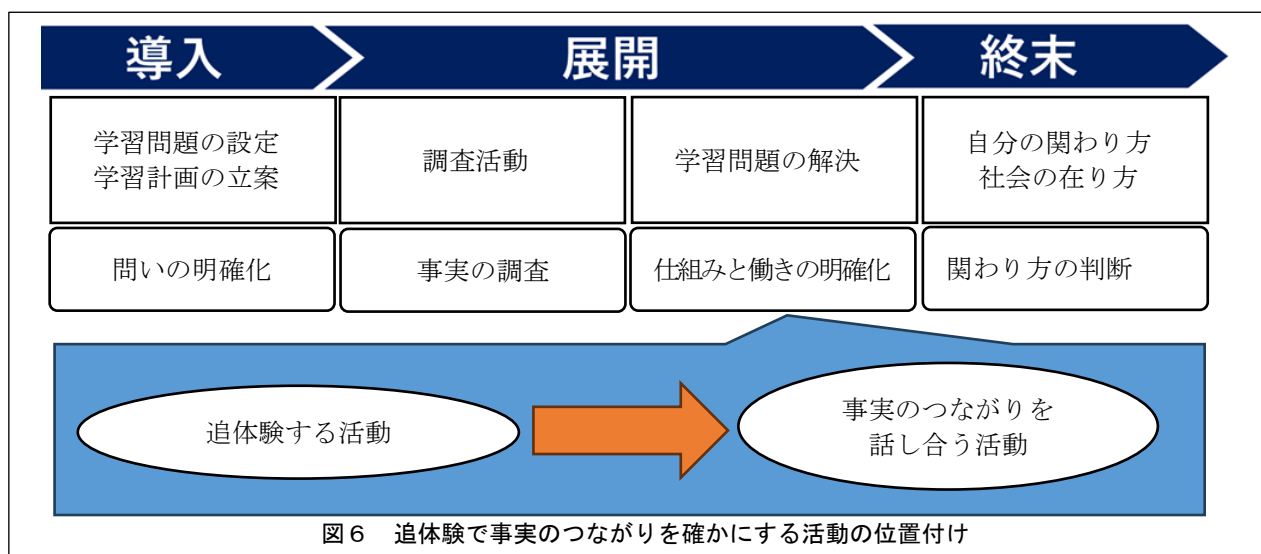


図6 追体験で事実のつながりを確かにする活動の位置付け

追体験で事実のつながりを確かにする活動について、以下に目的、内容、方法、支援を整理する。

表2 追体験で事実のつながりを確かにする活動の目的、内容、方法、支援

	【追体験する活動】	【事実のつながりを話し合う活動】
目的	社会的事象の働きに感動や尊敬の念をもち、よさを捉えるため。	自他の考えに納得し、働きと仕組みの関連を明確にするため。
内容	社会的事象に関わる人の行為によりつくり出したものや行為に関わる出来事を体験する。	体験をして捉えたことを基に、仕組みと働きのつながりを見直して考え、他者の考えと比較する。
方法	①社会的事象の働きを視点としてもつ。 ②視点を基にして体験する。 ③体験して感じたことをかき表す。	①追体験したことを根拠に、考えをつくる。 ②考えを交流し、共通点を見いだす。 ③自分の考えを付加、修正、強化する。
支援	社会的事象の働きに共感し、感動や尊敬の念をもち、よさを捉えることができるように、視点を振り返り、働きを視点としてもつことを確認し、体験して感じたことを関係図にかき表す活動を設定する。	自他の考えに納得し、働きと仕組みの関連を明確にすることができるように、他者と交流する際に、共通点を視点として比較するように助言する。

4 研究の目標

社会科学学習指導において、社会的事象の意味を実感する子供を育てる方途として、追体験で事実のつながりを確かにする活動の在り方と有効性を究明する。

5 研究の仮説

社会科学学習指導において、追体験で事実のつながりを確かにする活動の在り方を以下の三点から工夫して行えば、社会的事象の意味を実感する子供が育つであろう。

【視点1】教材化の工夫

【視点2】関係図の工夫

【視点3】ICT 機器活用の工夫

6 研究の構想

(1) 教材化の工夫

追体験で事実のつながりを確かにする活動の在り方について以下の3点から教材化を行えば、社会的事象の意味を実感することができると思う。

本質性	空間や時間、相互関係といった視点を基に、事実を比較・分類、総合、関連付けをして、共通の願いによる人々の行為の仕組みと働きが自分達の生活と結びついて捉えることができる。
関係性	子供にとって物理的、心理的に近い距離にあり、社会的事象を複数の立場から意味を解釈し、社会的事象に関わる立場の人の思いや願いも関連付けて、社会への関わり方を選択・判断したり考えたりすることができる。
活動性	見学、調査したり資料から調べたりして捉えた事実を、比較したり関連付けたりして自分の考えをつくったり、学習問題を解決するために他者と交流し、共通点や違いから考えに付加、修正、強化し、共通理解して納得感を味わったりすることができる。

第3学年「久留米市の工場のしごと」では、本質性、関係性、活動性を以下のように整理して教材化をする。

本質性	工場の立地や他地域のつながり、仕事の工程といった視点を基に、アサヒシューズ工場について調べ、事実を比較・分類、総合、関連付けをして、アサヒシューズ工場は、大きい道路、鉄道沿いに立地し、他地域と輸送等でつながっており、人々に健康な生活を送ってほしいという願いを踏まえて、歩きやすくはきやすい快歩主義の開発や機械と人の役割を分けて高品質の靴を製造し続けることで、久留米市の人々に使われていることを捉えることができる。
関係性	久留米市は、ゴム産業が盛んでアサヒシューズ工場は久留米市で100年前からゴムを使った靴づくりをしており、久留米市の有名な工場として認識している子供も多く、アサヒシューズ工場で作られる快歩主義が久留米市の人々に使われていることを、工場働く人や足の専門家といった立場から解釈し、人々に健康な生活を送ってほしいという思いで作り続けていることを踏まえて、久留米市にあるアサヒシューズ工場のことを多くの人に知らせるためにパンフレットで発信することができる。
活動性	久留米市の地図、久留米市のゴムに関する年表、靴の売り上げの統計、アサヒシューズの工場が出している動画や工場の製造工程のパンフレット、働いている人や足の専門家の話の資料、本物の靴から、アサヒシューズ工場でどのようにしてたくさん売れる靴をつくられているのだろうという学習問題について、取捨選択した事実を比較したり関連付けたりして自分の考えをつくったり、自分の考えを他者と交流して共通点を見だし、納得感を味わったりすることができる。

(2) 関係図の工夫

自分の考えを整理してまとめたり、説明したりすることができるように関係図を活用する。根拠となる信頼性のある事実を基に、事実と事実を線や矢印を使ってつなぎ、解釈を加えて、自分の主張を結論としてかく。関係図を使い交流することで、他者に自分の考えを説明しやすくなったり、他者の考えを視覚的に捉え理解しやすくなったりする。また、追体験をしてとらえた社会的事象の働きの実事を基にして考える際に、関係図を使うことで社会的事象の働きから仕組みを捉え、自分と結び付けて捉えやすくなると考える。さらに、関係図を使って交流することで、共通点を視覚的に捉え、共感しやすくなると考える。

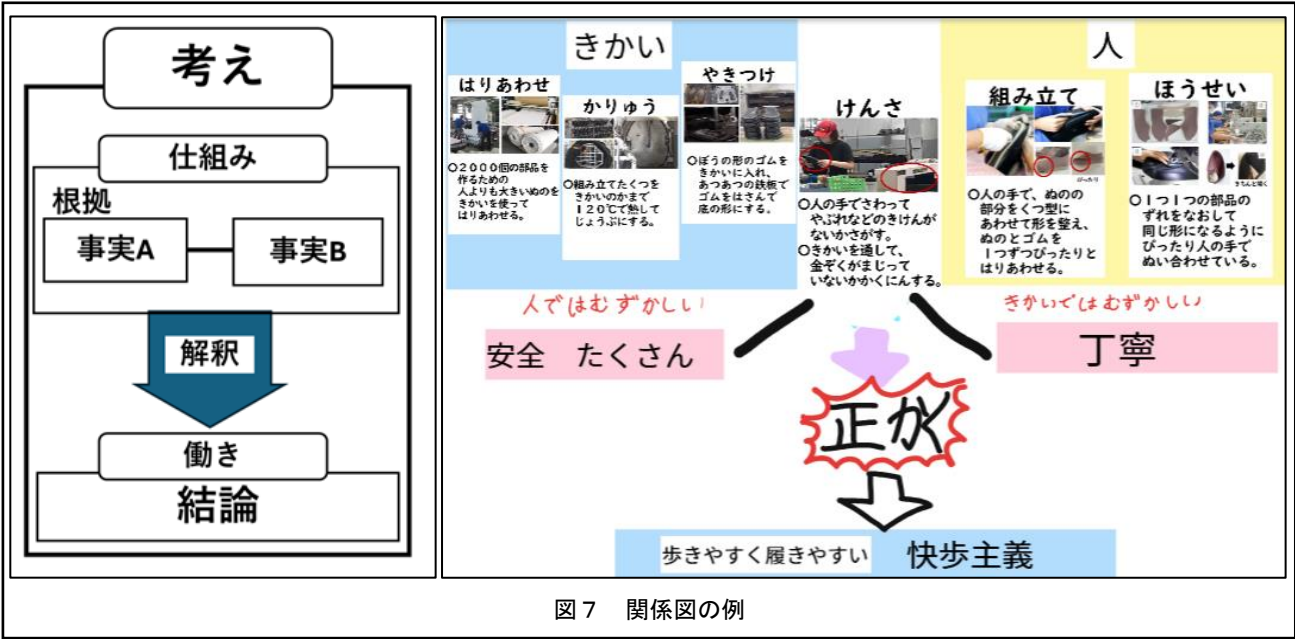


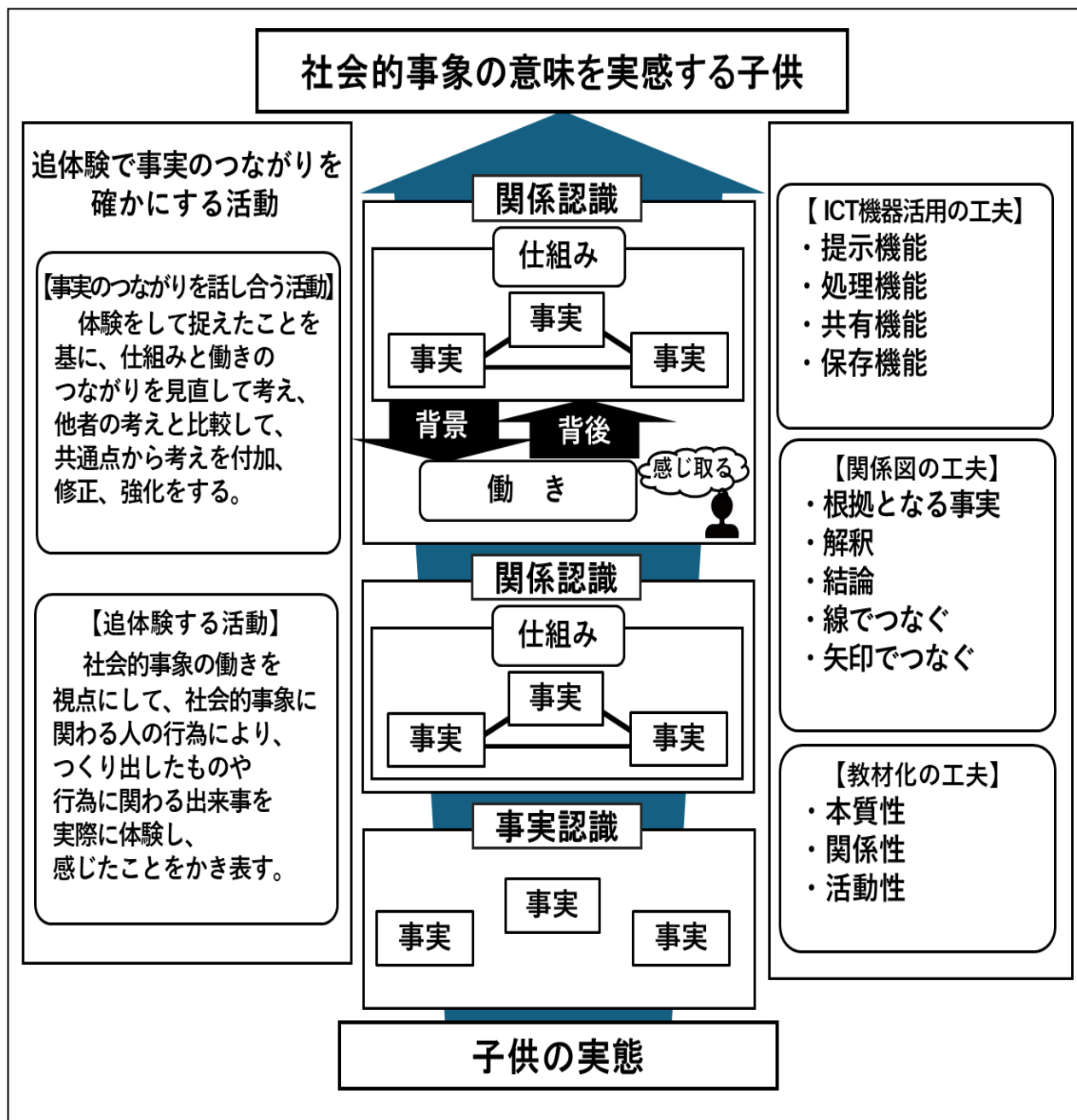
図7 関係図の例

(3) ICT 機器活用の工夫

追体験で事実のつながりを確かにする活動を活性化させるために、情報の収集、分類・整理、考えのまとめ、交流の場面で ICT 機器を活用する。タブレット端末や大型テレビといった ICT 機器を機能に応じて次のように用いる。

機能	内容	事実のつながりを確かにする活動
提示機能	- 写真やグラフ等の資料や前時の板書、既習の関係図といった資料を拡大して提示 - 児童用タブレット端末への資料の一斉配付 - 全体交流する際に考えを提示	交流する際に自分の作った考えや体験した様子を提示できること
編集機能	- グーグルアース、グーグルマップ、ストリートビューを使った見学の疑似体験 - 配布された写真や資料、インタビュー動画、インターネットから情報を収集 - オンラインでのインタビュー - 自分の考えを関係図で作成	関係図を見直し、付加、修正を容易にできること
共有機能	ノートの写真や関係図を共有	関係図をすぐに共有できること
保存機能	板書、ノートの記録、資料、関係図の蓄積	関係図を見返すこと

7 研究構想図



8 検証計画

検証過程		検証の視点	検証方法
単元展開段階	追体験する活動	社会的事象に関わる人の行為によりつくり出したものや行為に関わる出来事を体験することは、社会的事象の働きに感動や尊敬の念をもち、よさを捉える上で有効であったか。	○文章や関係図の記述分析 ○発言や様子の観察 ○アンケート
	事実のつながりを話し合う活動	体験をして捉えたことを基に、仕組みと働きのつながりを見直して考え、他者の考えと比較して、共通点から考えを付加、修正、強化することは、自他の考えに納得し、働きと仕組みの関連を明確にする上で有効であったか。	○文章や関係図の記述分析 ○発言や様子の観察 ○アンケート